

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 すきっぷ神楽		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 16日		～ 令和8年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 25日		～ 令和8年 3月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	遊びや運動活動を通して様々な経験を積み重ね、「できた」という成功体験を大切にしながら、子ども一人ひとりの発達や特性に合わせた関わりを行っています。	子どもの興味や発達段階に合わせて活動内容を工夫し、小さな成功体験を積み重ねられるよう関わっています。また、順番を待つことや譲り合いなど、遊びの中で社会性を学べるよう支援を行っています。	子ども一人ひとりの発達や特性を踏まえながら、遊びや運動活動を通して様々な経験ができる機会を増やし、「できた」という成功体験が自信につながる支援をさらに充実させていきます。
2	SSTやコグトレ、運動遊びなどを取り入れ、静と動の活動のバランスを大切にしながら、子どもたちが様々な経験を通して成長できる総合的な活動を提供しています。	SSTやコグトレ、運動遊びなどを取り入れ、静と動の活動のバランスを意識したメリハリのある支援を行っています。また、子どもたちの年齢や発達段階に合わせてグループ分けを行い、無理なく楽しく取り組めるよう活動内容を工夫しています。	活動内容について定期的に見直しを行い、子ども一人ひとりの発達や興味関心に合わせながら、楽しさの中で様々な経験を積み重ねられる活動をさらに充実させていきます。
3	アセスメントや研修の充実化に取り組んでいます。	フォーマルアセスメントの書式を整備し、子どもたちの状況をより客観的に把握できるよう取り組みました。また、作成した個別支援計画を職員が日々確認できるよう支援記録ファイルの裏表紙に掲示し、職員間での支援内容の共有を強化しました。さらに、職員アンケートをもとに研修内容を決定するなど、職員の資質向上にも取り組んでいます。	フォーマルアセスメントを活用しながら子どもの状況を適切に把握するとともに、職員アンケートをもとに研修内容を検討することで、職員の専門性の向上と支援の質の向上に取り組んでいます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容により地域の子どもたちとの交流機会に差があります。	活動内容や子どもの特性により、全ての子どもが地域交流活動に参加できるとは限らない状況があります。	地域の公園や施設の利用を通して、子どもたちが地域の中で安心して活動できる経験を増やしていきます。
2	子ども同士の関わりの中でトラブルが生じる場面があり、気持ちの整理や関係調整の支援が必要となることがあります。	発達特性により言葉でのやり取りが難しい場合や、感情のコントロールが難しい場面があり、その場の対応のみで終わってしまうことがあります。	子ども同士の関わりの中で生じるトラブルに対して、その場での対応だけでなく、終わらせるのではなく、気持ちの整理や相互理解につなげる支援をより大切にしていきます。
3	曜日固定の利用形態により、平日に実施している行事に参加できない子どもがいる状況があります。	利用曜日が固定されていることから、実施日によっては参加が難しい子どもがいる状況となっています。	より多くの子どもたちが参加できるよう、行事の実施日を土曜日や祝日に設定するなどの工夫を行っています。